

救援活動のお手本
だと思ったのは、台
湾です。一九九九年
の台湾大地震では、
大きな余震があっ
て、自分たちの活動
も、建物の下敷きで
手足がちぎれかけた
市民を治療したり、
心臓マッサージを施
しながら救急車と同
乗したりと、緊張の
連続でした。

でも、日本から台
北に到着するなり、
台湾の医師免許などなくても、
空軍の幹部が「お前たちなら大
丈夫だろう」と、すぐさま被災

三宅和久さんが語る

と働いていました。
このシステムを日本はま
ねしなければいけない。国
内の災害だけでなく、海外
で行う救援活動でも威力を
発揮するでしょう。

ところが、日本では自衛
隊に縛りを付けすぎしていま
す。阪神大震災や台湾大地
震では、暴動や強奪があり
ませんでしたが、国によっ
ては、そうした危険も考え
ないといけない。実際、九
八年のアフガニスタン地震
では、被災地で、敵対する
勢力間のトラブルがあり、
医薬品を運ぶトラックが襲
われたことも……。私たちが移

動の時には、兵
士に見張りを頼
んだほどでし
た。

いつも災害現
場で感じるこ

国際救援のお手本 台湾で見つける

地にへりで運んでくれました。
医薬品の補充、医者や患者の輸
送も、軍に頼めばすぐにやって
くれた。地元だけでなく、海外
から来た民間活動団体(NGO)
と軍とのコンビネーションの良
さは抜群で、みんなが伸び伸び

は、自己完結力のある軍など大
きな組織が、給水や輸送など力
仕事を行い、医療など細かい作
業をNGOが受け持てば、効率
的な救援活動が可能になるとい
うことです。

日本では、シャベルだけで行
けるような地域であっ
ても、「自衛隊を派遣
するのはいかなもの
か」といった議論が聞
こえてくる。残念です
ね。本当に国際貢献を
する意思があるなら、
政治家は、世界各地の
現場に足を運んでから
議論して欲しい。

台湾地震の救援で、患者搬送などを
台湾海軍と相談する三宅医師(右)ら



聞き手・勝股 秀通
(おわり)